

令和6年度 第4回富山県総合教育会議

日 時：令和6年11月20日（水）10:30～11:30

場 所：県庁4階大会議室

次 第

1 開 会

2 知事挨拶

3 議 事

(1) 県立高校における教育振興について

○令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿(案)

(2) 公私立高等学校連絡会議について（報告）

4 閉 会

<配付資料>

資料1 県立高校の基本目標

資料2 県立高校の配置の姿

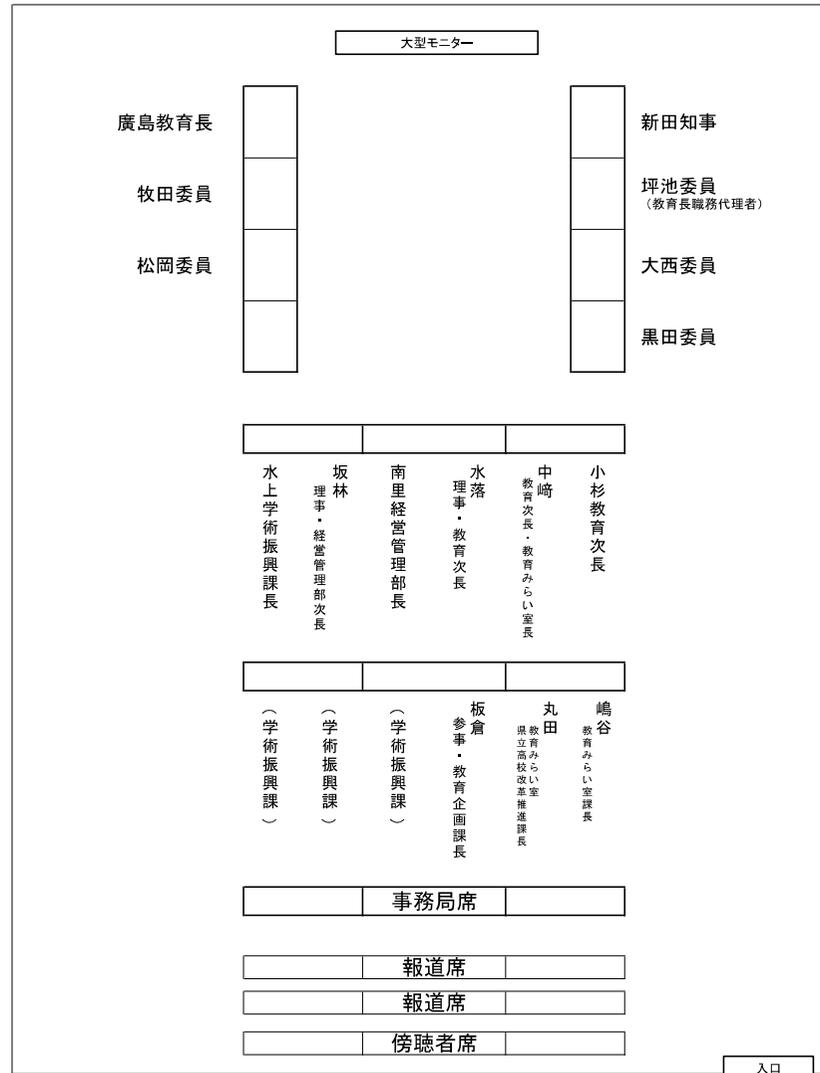
資料3 様々な学科構成×様々な学校規模＝幅広い選択肢の提供

資料4 令和6年度の進め方(案)

資料5 令和6年度第2回富山県公私立高等学校連絡会議の開催結果

令和6年度第4回富山県総合教育会議 配席図

日時 令和6年11月20日(水)10:30～11:30
場所 県庁4階大会議室



令和6年度第4回富山県総合教育会議 出席者名簿

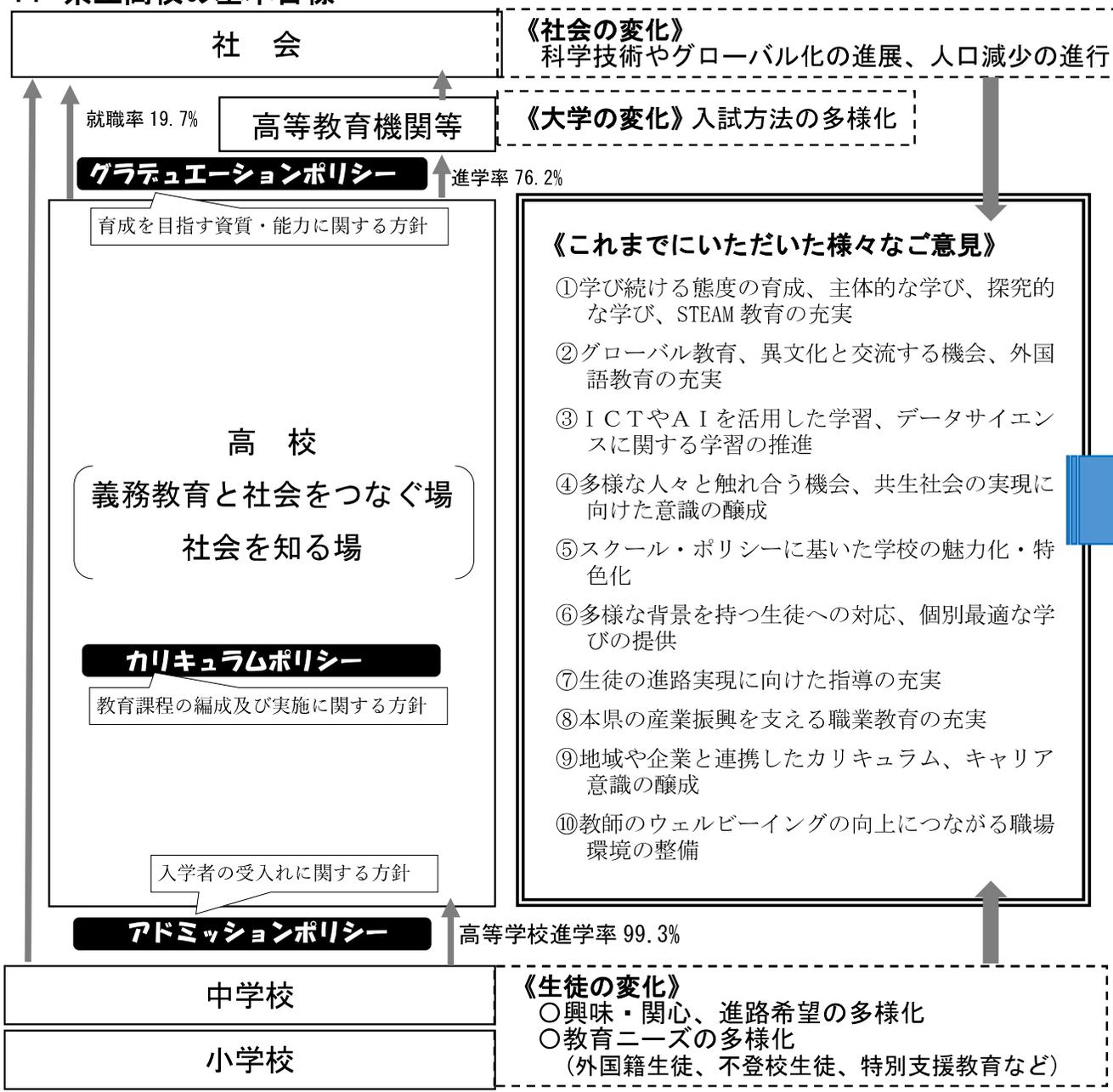
(敬称略)

(委員)

職名	氏名	備考
富山県知事	新田 八朗	
富山県教育長	廣島 伸一	
富山県教育委員 (教育長職務代理者)	坪池 宏	元富山県教育次長
富山県教育委員	大西 ゆかり	社会福祉士
富山県教育委員	黒田 卓	大学教授
富山県教育委員	牧田 和樹	会社社長
富山県教育委員	松岡 理	医師

令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿（案）

1. 県立高校の基本目標



予測困難な時代

《基本目標》

- (1)時代に適応し、未来を拓く人材の育成
めまぐるしく変化し続ける予測困難な時代においても、社会の変化やニーズを的確に読み取り、様々な人々と協働して社会参画できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせ、生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育む。
- (2)学びたい、学んでよかったと思える高校づくり
①各校がオンリーワンの特色を創出し、そこで学びたい生徒を受け入れて、②義務教育までに身に付けた資質・能力をさらに伸ばしながら、将来の目標を明確化させ、③目標達成に必要な就職・進学を実現させる。
- (3)富山ならではの教育を通したウェルビーイングの向上
富山県が誇る豊かな自然・文化や本県の発展を支える産業に加え、地域や企業と連携するネットワークを十分活用したカリキュラムを提供し、生徒・教員のウェルビーイングを向上させる。

進学率、就職率は令和 5 年度学校基本調査より

令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿（案）

2. 県立高校の配置の姿

(1) どんな「学科構成」を

資料 2

「基本目標」の達成に向け必要と考えられる主な教育内容と、提言で示された「様々なタイプの学校・学科」との親和性

区分	教育内容	必要となる教育課程等	「様々なタイプの学校・学科等」との親和性			
			中高一貫 教育校	国際バカリア 認定校等	外国人生徒 特別枠	全国募集
普通系 学科	①スタンダード	共通教科の学習を主体として、学校の状況やスクール・ポリシーに応じた教育課程の編成				
	②STEAM	卒業後の高等教育機関での研究等を視野に入れた探究活動や教科横断的な学びを実践し、問題解決能力や創造力を育む。	○			
	③グローバル	国際感覚を持って海外と関わる人材を育成するためのグローバル教育を実践する。	○	○		○
	④未来創造	スポーツや芸術文化、データサイエンスなど特色ある普通系専門科目を重点的に学び、部活動の強化も図る。				○
	⑤地域共創	地域の企業や高等教育機関等と連携した教育活動を展開するなど、独自性のある教育を実践する。				○
	⑥エンパワーメント	様々な理由から義務教育の内容について学習不足である生徒等が、基礎学力を習得し、自己肯定感を高め、生きる力を育むことができる教育を実践する。			○	
⑦総合学科	入学後のキャリア教育等を通して、自身の進路希望を明確にし、進路に合った学びを提供する。	複数の専門科目の開設			○	
⑧職業系専門学科	進路を見据え、1年次から職業系の特定専門科目を履修し、各分野で即戦力となるスペシャリストを育成する。	デュアルシステム等の特別プログラムの実施				

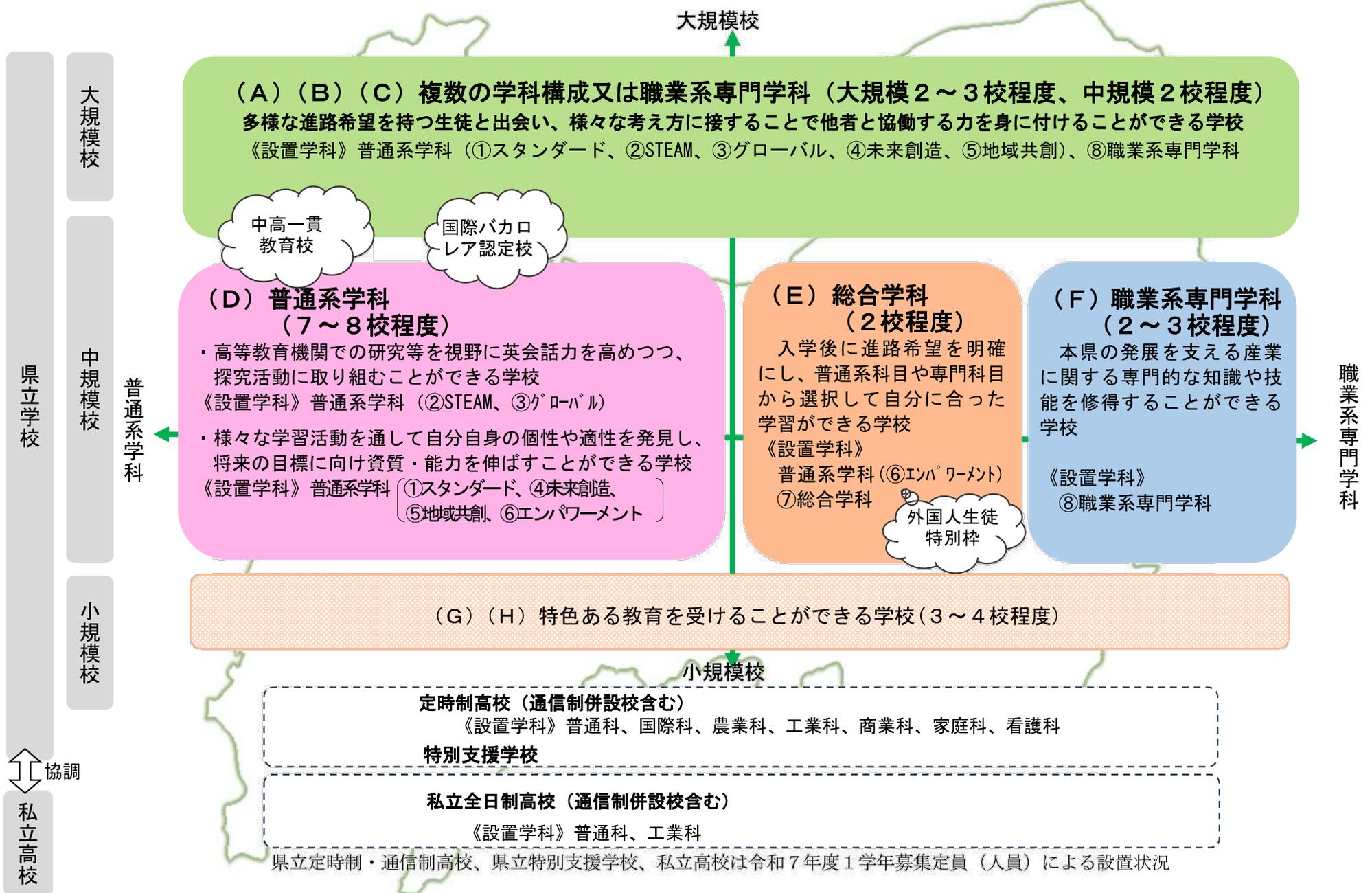
(2) どんな「規模」で

県全体の募集定員は4,000～5,000人程度と見込まれることから、全県で20校程度（平均募集定員200～250人）とし、学科の組み合わせにより様々な学びの場を提供する。

学校規模		規模	大規模校（新築など） （1学年400～480人）				中規模校（改修も含む） （1学年200～240人）				小規模校 （1学年120人以下）	
		設置の理由	<ul style="list-style-type: none"> 令和20年度以降も見通した拠点校として大規模校の設置を目指す。 様々な進路希望を持つ生徒と交流し、多様な考え方に接することで他者と協働して社会参画できる力を高める学校 				<ul style="list-style-type: none"> 現在の高校施設の活用を基本とし、中規模校を設置する。 教員配置及び開設科目、部活動の数等を維持し、生徒の選択肢を確保する。 				小規模校ならではの特色ある教育活動が期待される場合や、生徒の通学時間を考慮して設置する。	
			(A) 複数の学科構成		(B) 職業系 専門学科	(C) 複数の学科 構成	(D) 普通系学科		(E) 総合学科	(F) 職業系 専門学科	(G) 普通系学科	(H) 職業系 専門学科
学科	普通系学科	①スタンダード	○	○	○		○		○			
		②STEAM		○	○			○				
		③グローバル		○	○			○				
		④未来創造	○	○	○				○			○
		⑤地域共創	○	○	○				○			○
		⑥エンパワーメント							○	○		
	⑦総合学科								○			
	⑧職業系専門学科	○		○	○	○	○			○		○
全県 (20校程度)			2校		0～1校	2校	7～8校		2校	2～3校		3～4校
			2～3校			13～15校						

様々な学科構成×様々な学校規模＝幅広い選択肢の提供
 ～令和20年度までに実現を目指す県立高校「次世代とやまハイスクール（仮称）」～

資料3



県立定時制・通信制高校、県立特別支援学校、私立高校は令和7年度1学年募集定員（人員）による設置状況

令和 6 年度の進め方（案）

	総合教育会議の進め方（案）	地域の様々な声をお聞きする方法
11月	第 4 回（本日（11 月 20 日）） ▶ 「令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿」（案）について	
12月以降	第 5 回以降 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」に関すること ▶ 目指す姿の実現に向けた検討方針に関すること ▶ 県立高校再編の検討 </div>	<div style="border: 2px dotted black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 高校生アンケート調査・意見交換 県立高校教職員アンケート調査 地域の教育を考えるワークショップ 地域の教育を考える意見交換会 など </div>
年度中（目途）	「魅力と活力ある県立高校の基本方針（仮称）」決定 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> I. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿 II. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」 III. 目指す姿の実現に向けた検討方針 </div>	

令和6年度 第2回富山県公私立高等学校連絡会議の開催結果

資料5

日 時：令和6年10月23日（水）15:00～16:30

場 所：富山県民会館 509号室

出席者：経営管理部次長（座長）、私学関係者4名、県教育委員会5名、学術振興課長、中学校長会1名 計12名

（出席者からの主な発言・意見等）

※ 今回、中学校長会に出席いただき、中学校における進路指導の現状等について委員からの質問に回答後、意見交換を行った。

1 中学校の進路指導の現状等について

（1）中学校の進路指導について

- 中学校での進路指導は、自己理解に係る学習活動や、職業までを見据えた将来設計、短期の進路先である高校調を3本柱として、各学年で計画的に指導を行っている。
- 進路は本人の希望を大切にすが、学校側から進路先を検討するための材料や視点を提供し、面談で一緒に検討している。

（2）通信制高校について

- 不登校生徒が増加する中、生徒の進路選択の一つとして幅が広がったが、不登校＝通信制ではない。
- 本校が富山県にないため、学校生活の具体的な様子がわからない。また、新しい学校もあり卒業後の進路状況が分からず、中学校の担任からの具体的な情報提供が難しい。

（3）県外への進学について

- 県外へ進学する生徒の主な理由は部活動であり、早い時期から希望を固めている生徒も少なくない。
- 県外進学を希望していた生徒が通学時間や一人暮らしの生活などを考えた結果、最終的に県内高校へ進学したケースもある。

(4) 2次募集について

- 中学3年生の段階で明確に将来を見据えて進路選択ができる生徒は少ない。異なる学科への進学を機にその分野に興味関心をもつこともある。2次募集を希望する生徒には、本人の適性や興味関心などを踏まえて適切に進路指導を行っている。
- 2次募集の制度は進路の選択肢の幅を広げている。
- 県立の2次募集の合格者が1次合格者と齟齬が出ないようにしてほしい。

(5) 中高一貫校について

- 設置のねらいが明確に中学生に伝われば、興味関心を持ち、選択肢の一つとして考える生徒が出てくるのではないか。

(6) 外国籍の生徒への対応について

- 現行の入試制度に対応できる学力を身につけることが難しい外国籍の生徒も多く、特別入学枠のような対応をしていただけるとありがたい。
- 職業人口としても外国人が増加する中、その子どもの教育への対応が必要だと考える。現行制度では、中学校で学びの場が途絶える。

(7) 今後の高校の学校数や定員について

- 定員割れという数値的な問題のみに縛られるのではなく、本県としてどのような人材を育てていくのか、どのような学科がどの地域に何校あれば良いのか、公私の枠を超えて考えていくことも考え方の一つではないか。

2 令和8年度以降の公私比率について

- 将来的には、公私比率や基準を設定しないことも考えられるが、当面は公私比率を緩和するなどの新たな基準が必要ではないか。
- 公私比率を緩和すれば定員割れが増える。県立でさらに定員割れが生じた場合、2次募集でさらに私立合格者が県立に流れる。私立は入学者数の把握が困難な上、経営にも大きく影響する。
- 志願倍率や入学者数などの実態に即した定員が必要である。
- これまで公私比率は、定時制や通信制などを除外してきた。公私比率の考え方を維持するのであれば、この除外していた一定割合をどうするか等の議論も必要。
- 新たな提案があれば、シミュレーションを作成することができる。公私比率について、引き続き議論が必要。

「令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿」(案) とワークショップ・意見交換会のご意見

1. 県立高校の基本目標

「令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿」(案)	ワークショップ・意見交換会のご意見
<p>(1)時代に適応し、未来を拓く人材の育成 めまぐるしく変化し続ける予測困難な時代においても、社会の変化やニーズを的確に読み取り、様々な人々と協働して社会参画できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせ、生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育む。</p>	<p>○富山県として、どのような人材を育成したいのかを考えていくべき。 ◆「切磋琢磨」は、もはや今の生徒に合わない。競争を強いるのではなく、他者理解と協力・共生を進めることが重要。 ◆知識ばかりではなく、社会で生きていくための力を身に付けられるような学びをどこの高校でも実施してほしい。</p>
<p>(2)学びたい、学んでよかったと思える高校づくり ①各校がオンリーワンの特色を創出し、そこで学びたい生徒を受け入れて、②義務教育までに身に付けた資質・能力をさらに伸ばしながら、将来の目標を明確化させ、③目標達成に必要な就職・進学を実現させる。</p>	<p>○子どもが何を学びたいのか。生徒が学びたいと思えるような学科、学習内容、活動があるとよい。そのためには、生徒が何を考えているかを反映できるとよい。 ◆魅力あふれる高校づくりは今後も推進し、その必要性を広めてほしい。魅力化と再編統合は、切り離して考える必要がある。 ◆一定の通学時間を超えてでもその高校へ行きたいという魅力ある高校づくりが必要。</p>
<p>(3)富山ならではの教育を通したウェルビーイングの向上 富山県が誇る豊かな自然・文化や本県の発展を支える産業に加え、地域や企業と連携するネットワークを十分活用したカリキュラムを提供し、生徒・教員のウェルビーイングを向上させる。</p>	<p>○富山県として特色ある高校をつくるならば、もっと富山県としての特色ある部分が必要。 ◆「富山が好き、富山で働きたい」と思えるよう、キャリア教育、ふるさと教育等の充実を中高でも進めていけるとよい。 ◆他県と比較してではなく、富山県独自の高校の雰囲気を作っていく必要がある。 ◆富山県には自然、工業、伝統工芸など多くの資源がある。それを生かすために柔軟なカリキュラムのコースを作ってほしい。 ◆富山にある伝統、資源に高校生が触れ、富山の学びを深める機会を作っていくことはとても大切。 ◆富山県には博物館、美術館が 70 以上ある。それらの施設をもっと活用してほしい。</p>

○ワークショップご意見 ◆意見交換会ご意見

2. 県立高校の配置の姿

(1) どんない「学科構成」を

「令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿」(案)	ワークショップ・意見交換会のご意見
<p>①スタンダード 共通教科の学習を主体として、学校の状況やスクール・ポリシーに応じた教育課程の編成</p>	<p>◆中学校段階で明確な将来を見つけれないので普通科へ行くのであり、普通科に特色を求めることは違う。 ◆どこへ行っても変わらない普通科があればよい。</p>
<p>②STEAM 卒業後の高等教育機関での研究等を視野に入れた探究活動や教科横断的な学びを実践し、問題解決能力や創造力を育む。</p>	<p>○普通科の良さは幅広く教養を学べる点。STEAM教育やデータサイエンスなどの統計的な知識を学ぶことが大切。 ○学び方を学ぶことが必要。特に普通科では探究活動の中で、今まで以上に地域と連携した活動ができるとよい。</p>
<p>③グローバル 国際感覚を持って海外と関わる人材を育成するためのグローバル教育を実践する。</p>	<p>◆現在も行われている海外研修やオンラインを含めた国際交流など、探究学習の充実やグローバル人材の育成を加速していくことがよい。</p>
<p>④未来創造 スポーツや芸術文化、データサイエンスなど特色ある普通系専門科目を重点的に学び、部活動の強化も図る。</p>	<p>○文系理系を問わずデータサイエンスの素養が求められているため、早い段階から科目として学習する必要がある。 ◆スポーツの各競技に特化したコースもあってよいのではないか。 ◆芸術はすぐに身に付くものではない。人間を創造していく基盤になる教科で、すべての学科に通じるもの。伝統への後継者育成を視野に入れた芸術分野に焦点をあててほしい。</p>
<p>⑤地域共創 地域の企業や高等教育機関等と連携した教育活動を展開するなど、独自性のある教育を実践する。</p>	<p>○環境、地域、経済、観光など地域の資産をターゲットにした探究活動の時間を増やしなが、進学にもシフトしていけるような普通科をつくるべき。 ◆近隣の大学と連携し地域の課題解決に向け、優れた人材育成につないでほしい。</p>
<p>⑥エンパワーメント 様々な理由から義務教育の内容について学習不足である生徒等が、基礎学力を習得し、自己肯定感を高め、生きる力を育むことができる教育を実践する。</p>	<p>◆18歳成人になった時に就職・進学をさらに深められる生涯教育、学び直しやコース変更があってもよい。実社会に生かせる学びが提供される地域の学校を望む。 ◆本当は普通科に行きたいけれど、学力的に問題というのであれば、易しい普通科(一般教養科)みたいなものがあればよい。</p>
<p>⑦総合学科 入学後のキャリア教育等を通して、自身の進路希望を明確にし、進路に合った学びを提供する。</p>	<p>○出口である進学か就職かで高校を選ぶのではなく、高校時代に学びながら進路を選択できるような学科を設置してはどうか。 ○総合学科の特色を出すのが難しい。進学なのか就職なのかの出口が見えにくい。魅力化がなされたらよい。</p>
<p>⑧職業系専門学科 進路を見据え、1年次から職業系の特定専門科目を履修し、各分野で即戦力となるスペシャリストを育成する。</p>	<p>○地域連携という視点では、デュアルシステムも取り入れながら、学校では座学、企業では実習という取組みも考えられる。 ◆地元企業からは、資格取得より生徒のアイデアによるコンクール出場の機会を作ればよい、高校時代にできる活動をさせてほしいと聞いている。</p>

提言で示された「様々なタイプの学校・学科等」	ワークショップ・意見交換会のご意見
<p>《中高一貫教育校》</p> <p>生徒の選択肢を広げることや社会を変革するリーダーの育成等の観点から、設置に積極的な意見がある一方、市町村立中学校の学級編制等への影響から慎重に考えるべきとの指摘があることから、市町村教育委員会を含めた関係機関と協議しながら、引き続き、検討する必要がある。</p>	<p>○中高一貫校は6年間で柔軟なカリキュラムを作って学べるのがメリット。</p> <p>○中学生にとっては、高校生を身近に見ることができるため、自然な形で上級生の姿を浸透させることができる。</p> <p>◆中高一貫教育校にはメリット・デメリットがあるが、富山県の風土などに合ったものを検討してほしい。</p>
<p>《国際バカロレア認定校等》</p> <p>グローバルな視点を持ち、多様な人々と協働し、課題の発見、問題解決をしていくという機会があることは重要だが、日本の学習指導要領とのマッチングや英語の人材の確保、エキスパートの招聘、予算の創出等の課題が多いことも踏まえて、設置のメリットとデメリットを精査する必要がある。</p>	<p>○企業も国際化に力を入れている。海外から戻ってきた人の選択肢にもなるのではない。</p> <p>○IB資格の取得のハードルは高いが、バカロレアで行われる双方向・協働型の学びのスタイルは現代の授業では非常に重要な考え方。</p> <p>◆国際バカロレア認定校の導入は、すぐには難しいが、学びのスタイルをとり入れ、次の段階としてニーズが高まれば導入していくということになると思われる。</p> <p>◆以前PTAの意見で出した国際バカロレアを即、今日の資料でみることでできたのは嬉しい反面、自分の子には間に合わないのかと忸怩たる思いもある。</p>
<p>《外国人生徒に係る特別入学枠》</p> <p>実施にあたっては、外国人生徒の教育課程や日本語指導など、入学後の支援についても検討する必要がある。このため、本県において外国人生徒数が増加傾向にある状況等を踏まえ、特別入学枠の導入に向けて、検討を進める必要がある。</p>	<p>○製造業が多い富山県のことを考えると、外国人の対応について検討するのがよい。</p> <p>○安心して学べる環境を作ってあげたらいい。</p> <p>◆外国人労働者が増え、一緒に生きていくなれば相互に関われる学習も必須になる。ルビをふるだけの対応ではお粗末に感じる。</p> <p>◆外国人生徒を受け入れる場合、日本語での学習を深められるように、日本語を育成する場を学校の内外に設ける必要がある。</p>
<p>《全国募集》</p> <p>全国募集については、特色のある学科・コース等において、県外からの受検者に対して県外枠を設定し、意欲ある学生を全国から募集をしている都道府県もある。</p> <p>全国募集の先行事例を見ると、生徒単独の移住を前提とした受入れを行っている例もあるが、生徒受入れの宿泊施設や生徒の食事など日常生活の世話をする人材や体制、経費等の課題がある。また、高校と地域とをつなぐコーディネーターも配置されており、これらの人材配置や生徒募集に継続的な費用が必要となることから地域の協力も不可欠である。</p>	<p>○部活動や学科に特色のある学校で全国募集をしてはどうか。</p> <p>◆部活動の全国募集は賛成。県外への流出は部活動関係が多いのではない。</p> <p>◆特色あるコースは、全国から入学し学びたいという生徒がいるのではない。</p> <p>◆全国募集をする学校の特色として、郷土や中山間地ではありきたり。データサイエンス、グローバルなどその対極にあるものを2本目の軸とし、生徒自身が裁量をもって決められるという特色があるとよい。</p>

(2) どんな「規模」で

「令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿」(案)	ワークショップ・意見交換会のご意見
<p>《大規模校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 20 年度以降も見通した拠点校として大規模校の設置を目指す。 ・ 様々な進路希望を持つ生徒と交流し、多様な考え方に接することで他者と協働して社会参画できる力を高める学校 	<p>○子どもたちに多様な選択肢を提供することは大切で、様々な学科を備えた一定規模の高校が必要。</p> <p>○いろいろな意見が出る、いろいろな議論ができるような多様性のある生徒が集まる高校ができれば、ウェルビーイングの推進にもつながるのではないかな。</p> <p>◆小規模校はあってもよいと思うが、生徒が成長過程で多様な考え方に触れるためにはある程度の規模が必要。</p>
<p>《小規模校》</p> <p>小規模校ならではの特色ある教育活動が期待される場合や、生徒の通学時間を考慮して設置する。</p>	<p>○人間性の育成にもかなった小規模校はなぜだめなのか。</p> <p>◆小規模校には魅力がある。大規模校では人が多すぎる。小規模だからこそ、たくさんの生徒と関わり、たくさんのことにチャレンジできる。</p> <p>◆小規模校はどうしてよくないのか。1クラス 30 人であれば担任の目が届くのでよい。</p>

有識者の主なご意見

《令和6年度 第1回総合教育会議》令和6年5月2日(木)開催

県立高校教育振興検討会議 品川 祐一郎 会長

- ・ 子どもファースト、教育の質の向上、教員の働き方改革、多様な学びの場の提供、社会性の涵養、部活動の活性化、今回の再編のサステナビリティ、持続可能性を考えた際には、ある程度の規模の高校の再編ということは避けて通れない。
- ・ 複数の委員の方が地域との連携、データサイエンスやグローバルと同様にカリキュラムの中に組み込むべきではないかという意見をおっしゃっていた。将来の選択に向け、社会性を育む上で地域との関わりを学びの中で伝えていくべきという意見があった。

富山大学大学院教職実践開発研究科 林 誠一 教授

- ・ 目先の再編のことばかりに囚われず、これからの時代を生きる子どもたちに、今、教育にどんなことが必要なのかということを考えてあげないといけない。
- ・ 提言の「県立高校の目指す姿」の中で「未来を切り拓くことができる確かな資質能力」、「協働的な学びや、多様な価値観に触れることができる幅広い選択肢の確保」、「社会の形成に主体的に関わる力の育成」がこれから大事になる。
- ・ たくさんの情報が溢れているが、その中から大事なものを取り出して、自分で考えて判断して、相手に伝える。そういった教育はこれから非常に重要。
- ・ 様々な人との出会いは、子どもたちに非常に重要。進学、就職、専門学校と色々な進路を考える子どもたちが出会える、今以上の大きな規模の学校を作れたらよい。
- ・ 教育には、教員の資質能力が重要。大規模校であれば、同じ科目の教員が複数配置され、切磋琢磨し鍛えられる場面が多い。
- ・ これからの学校は、これまでとは大きく異なるはず。20年後、30年後にどうあるべきかをスタートにしてほしい。
- ・ 普通科はもっと特色を出すべき。
- ・ 生徒は、色々なことが自分事でない。世の中で起こっていることが自分事だという意識を持たせるように、先生方からも働きかけるべき。また、教育は学校だけでやっているのではないため、保護者や地域からの働きかけも必要。
- ・ 学校運営上、先生方が主体的にならなければ、子どもは主体的にならない。

《令和6年度 第2回総合教育会議》令和6年7月22日(月)開催

東北大学大学院教育学研究科 青木 栄一 教授

- ・高校卒業後の進学率が上昇しており、普通科志向が高まっている。
- ・生徒が多様化しており、対応が求められる。
- ・総合型選抜やAO入試などペーパーテストではない入試が広がっており、それとマッチした高校教育が提供されていない。
- ・知識基盤社会を担う人材、AIに負けない人材育成に向けて、高校教育が何を提供するかが問題。
- ・自ら課題を発見し、生徒同士が議論し、多様な主体と触れ合いながら解を見つけ出すような探究学習が全国で進んでいる。
- ・専門学科や総合学科は多様な学科が包括されているので、設置目的を再検証する必要がある。
- ・大学進学する専門学科も増えているので、中身や進路のあり方についても再検討が必要。
- ・総合学科は、富山県で設置した背景にさかのぼって、将来的な構想を検討するとよい。
- ・DXハイスクール事業が始まった。こうした国の動向も踏まえて県としての議論を進めていただきたい。
- ・不登校生徒など、普通の学びを受けて高校入試に臨む子どもばかりではない状況の中、高校入試のあり方も変わり、それと連動して高校教育の中身も変わっていくのではないかと。
- ・高校現場にとって入試の負担は非常に問題。激変することはないだろうと考えており、少しずつ微調整をしながら多様な高校入試が広がり、それに対応しながら高校教育も変わっていくと思う。
- ・オンラインが進むと、コーディネーター的な機能が必要。学校の先生に任せるのではなく、コストをかけても外部人材や団体のリソースを使う手もある。

株式会社スギノマシン 杉野 岳 代表取締役副社長

- ・各自治体に1校を堅持する必要があるのか。それにより、富山県の教育の弱体化や生徒の教育機会の不平等を招くというふうに思う。
- ・学校を集約することでプラスになるという考え方もある。
- ・高校は、誰が何をして社会が成り立っているのか、色々なバックグラウンドを持った人が集まっているのが社会であるなど社会を知る場であって欲しい。その意味において、学校を集約するということは多様性を身に付けることにつながるのではないかと。
- ・高校は視野を広げ、自分の意志で将来を選択する場であってほしい。押し付けるのではなく、機会を提供する場であってほしい。
- ・普通科に進学する生徒は、やりたいことが見つからないことも多いのではないかと。ただ漫然と勉強だけをするのではなく、将来を考えるために社会を知ることに関心を持ってもらいたい。

- ・ 職業科は、やりたいことが思い描けている生徒が行く場であるならば、専門性を高めるカリキュラムが必要。しかし、この選択でよかったのかと見つめ直す機会を与え、必要に応じてやり直せる仕組みも必要。
- ・ 中学校の段階で将来をすべて見通すことは不可能。世の中のことをよく知ったうえで職業科を選択したわけではないと思う。高校入学後にその選択から離れられないような形は非常に酷だと思う。
- ・ 職業科の生徒には、卒業生の職場を訪問し、どれほど誇りをもって仕事をし、社会に役立っている、必要とされているということを知ってもらいたい。
- ・ 学校間で単位交換できるようにしていただきたい。
- ・ 入試については、色々な意見があると思うが、一つのことに集中するという経験は無駄ではない。しかし、一発勝負では実力を見るには不適切。定期的に入試相当の試験を複数回行い合算で決めるなどの方法ができるとうい。
- ・ 今後 15 年で 30% 高校生が減っていくことが確実視されているため、今までと同じやり方では対応できない。これまでの教育を否定しているのではなく、選択が必要。
- ・ これから生きていく子どもたちは、デジタルネイティブ。私たちの感覚を押し付けるのではなく、これから生きていく人間の感覚はどういうものかを踏まえ、高校の今後のあるべき姿を見つけていきたい。

《令和6年度 第3回総合教育会議》 令和6年8月30日(金)開催

レオス・キャピタルワークス株式会社 藤野 英人 代表取締役社長C I O

- ・ 現代の日本のビジネスパーソンは、世界と比較して、勤務先に対する信頼度が低く、自己研鑽という面で学ばない、今の環境をただ我慢するという人が多いのが現状。
- ・ 日本の 18 歳の現状については、知識やスキルは習得できていても、当事者意識に欠け、他責主義や指示待ちに陥りがちで、明るい未来を思い描けない人が多い。
- ・ これからの教育が目指すべきは、当事者意識を持ち、主体的に行動し、明るい未来を描ける子どもを育てることではないか。
- ・ 高校3年次のウェルビーイング、幸せ指標をベンチマークにしていきたい。
- ・ 高校教育においても個別最適で協働的な学びの普及が必要。
- ・ 社会が大きくなり、創造性が重要で付加価値を競争することが重要になってきている。

県外視察報告

【埼玉県立伊奈学園総合高等学校】（埼玉県北足立郡伊奈町）

① 学校概要

- ・併設型中高一貫教育校 中学校2学級、高等学校普通科20学級(うち内部進学生2学級)
- ・昭和59年4月 開校（全国初の公立全日制の総合選択制普通科高校）
- ・平成15年4月 伊奈学園中学校開校

② 特色ある取組

- ・7つの学系（人文・理数・語学・情報経営・生活科学・芸術・スポーツ）をおき、多くの選択授業を提供。個別的なカリキュラムを組める。
- ・芸術とスポーツの学系以外は普通系として一括募集。
- ・ホームルームクラスは7つの学系の生徒が混ざっており、3年間同一のクラス。
- ・小規模な生活単位となるハウス制(各学年4クラスで構成)をとり、生徒間の親密性を担保する仕掛けを持つ。
- ・部活動は運動部・文化部合わせて55あり、活発である。
- ・英語・フランス語・ドイツ語・中国語が選択でき、それぞれの国との国際交流もある。

③ 施設設備等

- ・東京ドーム3個分の広大な敷地。
- ・体育館4つ。体操専門の体育館や広いグラウンド、蔵書約10万冊の図書館など、施設設備は恵まれている。
- ・7つのハウスは広い廊下でつながっており、外に出ずに移動できる。

④ 成果

- ・多様な進路に対応した総合選択制の役割を果たしている。
- ・多様な生徒と出会うことで、多様な価値観を認め合い、視野を広げることができる。
- ・生徒数が多いので、多くの部活動があり、それぞれの活動も盛んである。
- ・様々な専門分野の教員が集まるため、教員間においても切磋琢磨できる環境。



【千葉県立幕張総合高等学校】（千葉県千葉市）

① 学校概要

- ・総合学科 17 学級、看護科 1 学級
- ・平成 8 年 4 月 総合選択制の普通科高等学校として開校（道路を挟んで向かい側にあった幕張東・西・北の 3 校による統合）
- ・平成 16 年 4 月 県立若葉看護高校と統合（普通科 15 学級、看護科 1 学級）
- ・平成 31 年 4 月 普通科を総合学科に改編

② 特色ある取組

- ・進学を重視した総合学科として、4 つの系列（人文・文理・理工・芸術）に分かれ、自分の進路に向けた授業を選択する。
- ・県内唯一の看護科は、専攻科までの 5 年間。ここ 3 年間の国家試験合格率は 100%。
- ・通級指導による単位認定を認めている。
- ・外国人特別枠によって外国籍の生徒を受け入れている（R6 年度は 23 名在籍、R7 年度定員は 15 名）。
- ・HR でのコミュニティーを作ることが難しいため、部活動でのコミュニティーの重要度が相対的に高い。部活動 39（運動部 19、文化部 20）。



③ 施設設備等

- ・7 階建ての教室棟 I・II とそれを結ぶ廊下。音楽室や美術室などが集まる芸術棟。3,000 人が収容可能なメインアリーナとサブアリーナ、柔道場・剣道場が集まる体育棟。事務室・図書館・文化ホールなどが集まる管理・学習交流棟の 4 つに分かれる。
- ・2 年次以降は各自の HR 教室で授業を受けることが少ないため、教室には会議用長机を配置、各自の荷物は個人用ロッカーに保管。
- ・千葉国体の際に、吹き抜けにクライミングボードを設置。



（千葉県HPより）

④ 成果

- ・系列ごとに設置された選択科目の中から多様な選択ができ、一人ひとりの進路や適性に合った時間割を作成することにより、進路の目標に向かって自ら進んで学習できる。
- ・入学希望者が多く（R6 年度の倍率は総合学科 1.53 倍、看護科 1.40 倍）、生徒・保護者の満足度も高い。

【上野学園中学校・高等学校】（私立・東京都台東区）

① 学校概要

- ・併設型中高一貫教育校 中学校普通科 60 名、国際コース 20 名
高等学校普通科 100 名、音楽科 35 名(内部進学生を除く)
- ・令和 6 年 4 月 国際コース開設 定員 20 名(今年度入学の一期生は 6 名)

② 特色ある取組

- ・国際教育の伝統があり、ケンブリッジ大学やオックスフォード大学との連携もあることから、国際コースにケンブリッジ国際教育プログラムを導入した。
- ・日本のカリキュラムとケンブリッジ国際教育プログラムを融合させた 6 年一貫の教育活動を展開。
- ・授業の 7 割を英語で行い、担任とのやり取りも英語で行う。
- ・CLIL という英語が上級者でなくても教科の学習がしっかり学べるプログラムを採用し、教科内容と英語の両方を深く学べるよう工夫されている。



③ 施設設備等

- ・学校は 15 階建てで、中学校・高等学校・短大が入る都市型スクール。
- ・地下には温水シャワー設備のついた体育館もある。
- ・学校関係者以外が建物に入れない仕組みのセキュリティゲートがある。

④ 成果

- ・国際コースは少人数なので、その生徒の能力に応じた個別最適化された指導が展開できる。

⑤ 国際バカロレア（IB）との比較

- ・日本では、平成 30 年度から文部科学省が IB 教育推進コンソーシアムを立ち上げ、国際バカロレア（IB）の普及・拡大を推進しており、国際バカロレアを採用している学校が多いが、世界的にはケンブリッジ国際教育プログラムも普及している。

※令和 6 年度における日本の認定校数（インターナショナルスクール含む）

国際バカロレア認定校 249 校(うち DP(高校レベル)は 69 校)

ケンブリッジ認定校 21 校

- ・ケンブリッジ国際教育プログラムの方が、教科の組み合わせをフレキシブルに組むことができる。

